

スポーツ川崎

川崎市体育協会
紙
〈第3号〉
編集・発行
川崎市体育協会
広報委員会
TEL 200-3312
印刷所
(株)第一サンエー
TEL 222-2356

より速く より強く より高く

昭和54・55年度

魚津賞贈られる

ながらく、軟式庭球協会の会長として、本市の軟式庭球の発展に多大な功績を残して、昭和51年4月に早逝された、故魚津利氏のご芳志をもとにその功績を讃え、優秀な成績を残された選手、団体に對し、激励と今後の活躍を期待して「魚津賞」として優秀選手を表彰するものである。昭和54・55年度表彰者は次の方々が表彰された。



富士電機女子バレー部

同団体の部

富士電機
(全日本実業団女子9人制バレーボール大会2位)

日本鋼管
(全日本総合男子6人制バレーボール選手権大会2位)

昭和55年度個人の部

小出サエ子
(国体山岳成年女子登はん優勝)

木原美枝子
(国体山岳成年女子登はん優勝)

中熊由美子
(国体水泳少年少女20リレー3位)

森尾麻衣子
(全日本体操選手権大会2位)

鈴木 達雄
(全国高校空手道選手権大会団体3位)

鶴岡 栄
(全国中学体操選手権大会2位)



日本冶金野球クラブ

佐川 勝美

(全国高校空手道選手権大会相手3位)

太田 守久
(全国高校相撲選手権大会団体2位)

同団体の部

日本冶金
(国体軟式野球少年男子優勝)

富士電機
(国体成年女子9人制バレーボール優勝)

日本鋼管
(全日本バスケットボール選手権大会3位)

向の岡工業高
(全国高校新人相撲選手権大会団体3位)

向の岡工業高
(全国高校定時制柔道大会団体3位)

外野席

最近のママさんバレーボールは、普及を通り過ぎて流行と云った方が当っているのではないでしょう。わが川崎市に於けるママさんバレーボールも、その技術の向上とチーム数の増加は正に驚嘆に値する。PTA・町内会・団地・中学・高校のOG等の普及率は、20倍になっている。

美容と健康と親睦を目標とした初心も、神奈川県テレビが県大会の地区予選準々決勝より放映されるに及んで、練習につぐ練習で勝つまでは、の合言葉に家庭の主婦であり、母である事を忘れるような傾向がある。

ママさんバレーは、レクリエーションとして初期の目的である健康・美容・親睦に戻って欲しいものである。

川崎市体育協会
加盟団体の紹介(第三回)

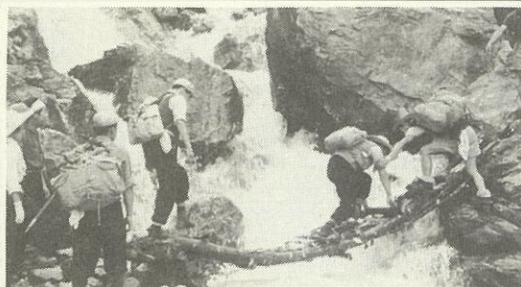
山岳協会

川崎市体育協会の一員である川崎山岳協会は、市内に事務所をもつ34の登山やハイキングの愛好団体で構成されている。そのうち23は、各会社、工場等の中にある山岳部やワンダーフォーゲル部であり、11が一般山岳団体、いわゆる町の山岳会である。

これらの団体が、その連合体である協会を結成した趣旨は、加盟各団体間の連絡・調整と相互援助であって、協会の活動もその目的ののっとって多面的に行われている。すなわち、会員同志の懇親や交流を目的として年一回開催される「協会まつり」や、集中登山・映画会などのほか、登山技術の向上、発展に寄与するための各種講習会や海外登山研究会などが定期的に行われている。また、

登山活動中における事故の発生を未然に防止するための対策連絡協議会や救助技術講習会の開催なども、協会の大きな事業の一つとなっている。

これらの仕事のほか山岳協会では、山登りを愛好する一般市民の皆さん方が、より楽しく、より安全な登山を行っていたできるようにと願って、「市民登山教室」を毎年開催している一方、より明るく健康な市民生活の

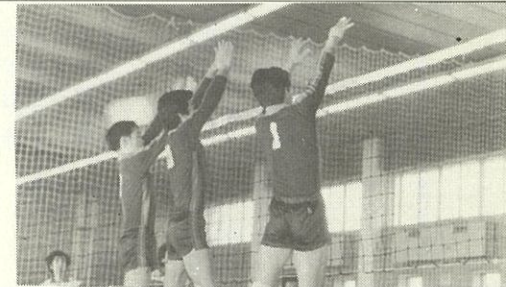


一助にと「尾瀬に親しむ市民のつどい」をはじめとして市民夏山登山の会や、市民のどなたでもが参加できる市民ハイキングを春と秋に行うなど、多彩な普及活動をも展開している。

最近はまだ、市民館をはじめとしての親子スポーツの活発化に伴って、外部への講師・リーダーの派遣や、ハイキンググループの結成・指導などのお手伝いも行っている。

バレーボール協会

昭和初期の市内におけるバレーボールは、男子マツダ・天狗クラブ・県立川崎中学・日電玉川、女子は市立川崎女学校OG、マツダ等のわずかなチームで行われていた。昭和10年頃、川崎小学校教諭・岩間魯一の努力により、春秋の2回の市民バレーボール大会をもつようになった。その後戦



争のため、大会等活動は一時中断したが、昭和21年東芝本社の浅野浩志が中心となり協会再建を図り22年富士電機工場長吉田貞之助を会長に市協会再発足となった。当時の参加チームは殆んど大企業のみ数チームであった。

現在の協会

現在の協会は会長に富士電機宮原修、理事長に富士電機湯田坂昌平、事務局に市立川崎高校吉田敏郎を中心に約60名の協

会役員で構成されており年間の大会も10回も開催され、協会登録チームは約210チームと県内でも横浜協会に次ぐ大所帯の協会である。また登録チームには、日本リーグで活躍する日本鋼管をはじめ富士電機川崎女子、日本鋼管クラブ等全国的なチームも少なくない。また近年盛んになった家庭婦人バレーボールの統括組織として協会から独立し会長佐藤忠次、理事長町田秋子等を中心に家庭婦人バレーボール連盟を52年結成し現在に至っている。

協会事務局

〒2110 川崎区中島3-3-1 市立川崎高校内 吉田敏郎 電24414981

家庭婦人連盟事務局

〒2111 幸区北加瀬386 町田秋子 電42213421

<p>川崎工業高校)と少数な</p>	<p>バドミントン協会</p> <p>バドミントンの日本における歴史は浅く、大正の末期から昭和の初期に一部の愛好者によってゲームが行われていた。組織化されたのは戦後のことで昭和21年に日本バドミントン協会が設立され、翌年に日本体育協会に加盟した。</p> <p>その後普及が広まり昭和24年に国民体育大会の種目として取り入れられ、それ以降各県下に普及した。本市に於いても同時に、一部事業所間に対抗戦の活動が見られ、昭和23年になって昭和電線の渡辺・氏家・山岸・由比が中心となり、協会の前身であるバドミントン愛好会を発足させた。</p> <p>発足してから4年後の昭和26年に活動団体が6団体(昭和電線・日本鋼管・コムビア・柏葉クラブ・県立川崎高校・県立川崎工業高校)と少数な</p>
<p>内線322</p>	<p>からも地道な活動を展開してきた。そして同年昭和電線の渡辺和助を会長に、バドミントン協会が発足、以来今日に至っている。当協会は次のような大会を行っている。</p> <p>(1)春季市民大会 5月 団体戦(男女別)</p> <p>(2)市制記念大会 8月 個人戦(ダブルス)</p> <p>(3)協会創立記念大会 団体戦 9月~10月</p> <p>(4)秋季市民大会 11月 個人戦(シングルス)</p> <p>前出の大会参加資格は市内在住・在勤者で、年度初めに団体登録をすることにより大会へ参加できる。また個人戦への出場については、登録がなくても参加可能である。</p> <p>なおバドミントン大会その他については左記へ問合せられたい。</p> <p>協会事務局 川崎工場内 佐々木孝治 電話23311111</p>
<p>再編成がはかられ名称も</p>	<p>スケート協会</p> <p>川崎市スケート協会はスピード部、フィギュア部、ホッケー部の3部より構成されている。</p> <p>昭和23年控井美津男・岩本元康を中心として、市民を対象に川崎市スケート協会が発足、一方、日本鋼管の本田正男・東芝の浅野浩志が会社、工場の厚生関係者を回り、東芝の久野元治を会長に勤労者を対象とした川崎市スケート連盟を発足させた。スケート協会は毎月2・3回神奈川体育館においてスケート講習会を実施した。スケート連盟は市内工場対抗スピード選手権大会・アイスホッケー戦を、神奈川体育館で開催してきた。</p> <p>昭和35年末まで両団体は別個の活動を行ってきたが、控井会長の急死と岩本元康の転居等に伴い、指導者を失ったため、関係者が一堂に会し組織の再編成がはかられ名称も</p>
<p>浅野浩志 電話52212761</p>	<p>スケート協会として一本化になった。昭和39年川崎区榎町にアイスバレスが誕生すると、ホッケー大会やスケート講習会が開催され、技術向上と普及に努めた。しかし、昭和44年4月アイスバレスが、45年3月ミススポーツセンターが夫々ボーリング場に転向したため、協会の活動も思うようにいかなかった。会場が少ない事と使用料の高騰等問題は多々あるが、これらの困難を乗り越えて市民スポーツの一翼を担うよう努力したい。昭和56年度事業はママさんスケート講習会(12月)、市民スケート講習会(1月)、実業団スピード大会(1月)、ホッケー大会(未定)、市民スケート大会(3月)、実業団スピード大会(2月~3月予定)</p> <p>協会事務局 〒210 幸区幸町2-691 浅野浩志 電話52212761</p>
<p>これが私たちの願いである。</p>	<p>市民球団</p> <p>ロッテ前期</p> <p>2年連続優勝!!</p> <p>昭和52年迄、仙台に本拠を置いていたロッテオリオンズ球団は、昭和52年大洋球団の横浜球場移転に伴い、伊藤市長を先頭に全市民が一丸となって誘致に努力した結果、市民球団となった。ロッテ球団は昭和25年毎日オリオンズとして発足し、33年大毎オリオンズと改名、39年東京オリオンズとなり、44年現ロッテオリオンズと改め今日に至っている。昭和55年度の成績は64勝51敗15引分前期1位、後期3位、通算2位の成績であった。今年前期は35勝26敗4引分の5割7分4厘で堂々の好成績で、前年同様前期優勝を遂げた。さらにこの力を後期に向けて優勝をかちとって欲しい。これが私たちの願いである。</p>

百合ヶ丘3年連続

昭和56年度

川崎市春季少年サッカー大会

4月29日より始まった川崎市春季少年サッカー大会は、百合ヶ丘子供サッカークラブ(A)の3年連続優勝という輝かしい記録のうちに

7月27日、読売ランドでの決勝大会を目指して現在その予選が全国各地で行なわれている。残念にも当川崎市の参加チーム



は予選大会の2回戦で惜しくも敗退したが、川崎市のチビツ子サッカー選手達は、県主催の「さわやか杯」に向けて現在猛練習中、上位進出を大いに期待したい。

伝統あるチームでまた百合ヶ丘は川崎市にあってひとときわサッカーの盛んなところである。少年サッカーといえは今年もまた全国少年サッカー大会が開催される。

春季少年サッカー大会成績
 優勝 百合丘(A)
 2位 大島小(A)
 3位 南百合(A)

雪にとべ

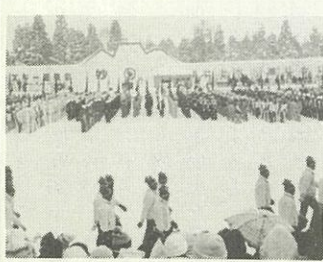
限りない未来へ!!

第36回国民体育大会冬季大会スキー競技会視察報告

日時 昭和56年2月21日(土)~2月24日(火)
 会場 新潟県妙高高原スキー場

参加者 44都道府県より約二千五百名参加
 開会式は小雪の降りしきる中で行われ、本県選手団は阿部治夫団長、照井万貴子旗手以下45名がクリム色のユニフォームをつけ、堂々の入場行進を行った。

大回転・女子壮年の部は前山チャンピオンBコースで、同少年男子と成年の部は前山チャンピオンAコースで行われた。クロスカントリーは、池の平白樺コースで行われ、ジャンプは県妙高高原ジャンプで技をきそった。
 競技運営に当たった地元

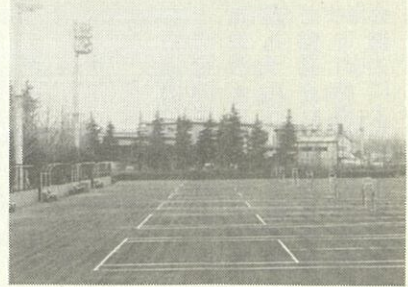


は過去昭和26年(6回)・36年(16回)・39年(19回)の開催経験をもち、全体を通して手慣れた運営でスムーズに終始した。本県の選手の活躍はジャンプに出場した今選手が第9位に入賞したが、アルペン、ノルディック種目共に日頃の実力を出しきれずに入賞を逸した。それにもかゝらず、雪無し県の選手として堂々と胸を張り、競技をしてくれた事が印象的だった。なお川崎スキー協会より、吉岡幹雄監督(神奈川県若葉SG)杉本、金、笠原、米山の各選手(東芝)の五名が参加、健闘した。

等々力テニスコート ナイター設備完成

川崎市体育協会多年の夢に対し、伊藤市長の英断によって、56年3月中原区等々力庭球場(八面)にナイター設備が完成した。この設備は、八千万円の巨費をかけ、勤労市民の健康と体力づくりに役立てようとしたものでその利用度は愛好者の数倍と云う盛況であり市当局は嬉しい悲鳴をあげている。

このテニスコート利用方法は、事前にチーム登録をしてから毎月10日、午前9時から翌月分の予約を抽籤の上受け付けます。なお詳細は左記に問合せの上、利用されたい。
 中部公園事務所
 電7333-5740
 国鉄武蔵小杉駅より市バス・東急バスで中原市場前下車



体育協会総会終る

昭和56年度川崎市体育協会の総会は、去る4月30日午後6時より産文第六会議室に於いて行われ、次の各項議案が承認可決された。大要は次のとおりである。

昭和56年度行事

- 一、春季大会
- 卓球他11種目
- 一、市制記念大会
- 庭球他13種目
- 一、秋季大会
- 弓道他16種目

一、其他の大会

- 市長杯卓球・子供相撲
- ・市民登山・部課長軟
- 庭・市民スキー・水泳
- ・スケート大会等

約三〇〇〇名が参加。

一、スポーツ少年団の育成

一、各競技種目の普及活動

一、各種体育大会派遣事業

一、創立30周年記念「川崎市体育協会史」の発刊

一、スポーツ川崎の発刊

一、ミニ国体の開催実施

一、本総会に会長である伊藤市長が出席され、理事諸氏より体協助成金の増額と、公共体育施設の整備・充実についての要望があり、市長も善処を約され、総会は午後8時に終了した。

昭和56年度予算

本体育協会の補助金には県体協より六万円、市より四百萬円で総計費七百六拾五萬円の予算が計上されているが、この予算は他都市に比較して若干見劣りの感なきにしも

である。

全国高等学校

バスケットボール大会、本市で開催

若人のスポーツの祭典

全国高等学校総合体育大会が、神奈川県を中心に開催されます。8月1日

改装なった三ツ沢陸上競技場での総合開会式を皮

切りに熱戦の火ぶたがき

られます。本市に於いて

はバスケットボールの部

が激戦の中を勝ちぬいた

各県の代表、男女一八

チームにより市体育館を

主会場として8月2日か

ら7日まで開かれ、高校

バスケット日本一を競い

ます。本市からは神奈川

県男子代表として法政二

高の出場が決定し、その

活躍が期待されている。なお会場は次の通りで、川崎市体育館、日本鋼管体育館、東芝堀川町体育館、東芝柳町体育館、東芝小向体育館、いすゞ体育館、市立高津高体育館、県立南高体育館等です。

トピックス

神奈川県体育協会内に「スポーツ医学専門委員会」設立さる！

県内の臨床医及び学識経験者をもって組織され、スポーツ関係者に医学的側面からの示唆及び資料等の提供、スポーツ医学に対する調査研究、運動処方等を目的に設立され、多くの方より期待されています。

市内スポーツ施設・着々整備！

(1) 等々力緑地内「野球場」整備
等々力球場と親しまれている野球場が改修されることになり現在の二〇〇〇人の観客席が約三〇〇〇人入場できることになり、夜間照明、そしてスコアボードの設置と素晴らしい球場に変更、完成がまたれます。

(2) 等々力緑地内「陸上競技場」整備

陸上競技場内フィールドを改修してサッカー可能施設に変ぼう。
姉妹都市リエカへ子ども親善大使派遣！
子ども親善大使として川崎市より8名の少年少女が派遣されますが、川崎市スポーツ少年団より第一回目の岩瀬君に引きつづいて今回も須山君が代表の一員として派遣が決定、8月20日より12日間リエカで親善活動を行います。須山君の健康と活躍を祈ります。

スポーツ今昔

体育協会加盟の歴史

昭和21年頃の市の体育行政は、現本庁一階左側の奥に、山下課長・浅野目係長が古びた机で体育行政を担当されていた。我々が昭和21年11月バレーボール協会を創立したので面倒をみて欲しい。バレーコートを作った欲しいと依頼して早三十年余り過ぎ、当時防空色彩を帯びたあの建物が走馬灯のように想い出される。

昭和22年谷口恭男氏が軍隊より復員し、各方面に体育協会の設立準備を働きかけると共に、金刺市長は、社会教育の振興はスポーツからと、宮地武夫・服部千代八両氏を配置した。

昭和23年瀬戸利夫・小熊栄治・相沢千代子・加藤礼子氏等が社会教育課に配置され、浅野目係長・谷口恭男氏等の一年余の努力によって川崎市体育

協会は十一月三日発足する運びとなった。

発足当時野球協会・卓球協会・軟式庭球協会・バレーボール協会・バスケットボール協会・スキー山岳協会・柔道協会・弓道協会の八団体が、現川崎球場自動車置場に二面のバレーボールコートが新設されてここに八団体が代表出席の下に、金刺市長が再建川崎市体育協会会長に就任し発会式が挙行された。

昭和24年に相撲協会・25年に陸上競技協会・自転車協会・26年にスキー山岳協会・27年剣道連盟・29年山岳協会・31年庭球協会・34年中学校体育連盟・高等学校体育連盟・42年ラグビーフットボール協会・49年サッカー協会・50年体操協会・51年空手道連盟・少林寺拳法連盟が各々加入した。

市民水泳大会

参加者募集

市内の水泳愛好者が一堂に会し、日頃の練習の成果を発表しあう機会をもうけ、水泳の普及と競技力の向上をはかることを目的に開催いたします。多数ご参加ください。

※日時 8月30日(日) 午前9時～雨天決行

※会場 川崎市営「等々力プール」 中原区等々力緑地内

※対象 市内在住、在勤の方

・在学(中学生以上)

※参加費 中学生は一五〇円、一般は三〇〇円

※種目 自由形・平泳・背泳・バタフライ・個



人メドレー・リレー・メドレーリレー・ただし性別・年齢等によって距離が異なります。

※参加制限 一人二種目以内(リレーはのぞきません。)

※申込み 8月17日まで

※申込費をそえて市教育委員会、体育課までお申込みください。

※問合せ 電2001-3312 体育課まで

当日は大会開催のため等々力プールの一般使用はできませんが、すずんでご参加ご観戦ください。

編集後記

うっとおしい梅雨がすぎ、すきとおるような青空に入道雲がわき、そして……。

昨年は涼しい夏で終始したが、今年は予報どおり、夏らしい天候になりそうです。

各種市民大会、そして高校総体と事業はつづくが、夏の暑さにもまげずに頑張っていこうと思っ

ています。

さて機関誌「スポーツ川崎」第3号をお届けします。読者の皆さん方に少しでも楽しく、読みやすく、楽しい誌面がつくれるよう努力したいと思っ

ておりますが、読者である皆さん方のご意見、ご感想が私達編集にたずさわるメンバーにとってどれ程参考になるかはかり知れませんが、どのようなことでも結構です。ご意見・ご感想をいただきます。と思います。